

科目名		言語発達障害Ⅳ			授業の種類	演習	講師名		
授業回数	30回	時間数	60時間	(2単位)	配当学年・時期	言語聴覚士科3年		必修・選択	必修
〔授業の目的・ねらい〕									
言語発達障害に対する各種支援法を演習を通じて学習する。									
〔授業全体の内容の概要〕									
実際に子どもや保護者の方に参加していただき、子どもとの接し方、臨床での観察の仕方、評価、目標設定などについて学ぶ。									
〔講師の実務経験〕									
〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕									
言語発達障害児に対し、客観的な評価をした上で訓練計画を立案できる。									
回数	講義内容								
1	オリエンテーション								
2	臨床ケース 1								
3	臨床ケース 2								
4	臨床ケース 3								
5	臨床ケース 4								
6	臨床ケース 5								
7	臨床ケース 6								
8	臨床ケース 7								
9	臨床ケース 8								
10	臨床ケース 9								
11	臨床ケース 10								
12	臨床ケース 11								
13	臨床ケース 12								
14	臨床ケース 13								
15	臨床ケース 14								
16	臨床ケース 15								
17	臨床ケース 16								
18	臨床ケース 17								
19	臨床ケース 18								
20	臨床ケース 19								
21	臨床ケース 20								
22	臨床ケース 21								
23	臨床ケース 22								
24	臨床ケース 23								
25	臨床ケース 24								
26	臨床ケース 25								
27	臨床ケース 26								
28	臨床ケース 27								
29	臨床演習 まとめ								
30	臨床演習 まとめ								
【 準備学習・時間外学習 】									
【 使用テキスト 】									
書籍名					著者名		出版社		
なし・配布プリント									
【 単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など） 】									
試験の結果を100点満点として成績を評価する。試験は定期試験のみ実施とし、60点以上の場合に科目を認定する。									